

気象

【概況】

【平成17年の気象の特徴】

- ・冬は気温の変動が大きかった。
- ・春は高温で記録的な少雨。
- ・梅雨入り(6月11日頃)は平年より遅く、梅雨明け(7月18日頃)は平年並、梅雨期間は少雨。
- ・夏は高温で記録的な少雨。6月は記録的な高温で少雨。
- ・秋は高温。9月は残暑の厳しい日が続ぎ、高温。10月は高温・多雨。11月は少雨・多照。
- ・初冬は記録的な低温。

平成17年の台風発生数は23個で、平年(26.7個)より少なかった。一方、日本に上陸した数は3個で、平年(2.6個)並みであった。また、日本に接近した数は12個で、平年(10.8個)並みであった。なお、接近数の内訳は、本土4個(平年は5.2個)、南西諸島に8個(平年は7.2個)であった。

【月別の気象概況】

- 1月： 上旬は冬型の気圧配置となることが多く、強い寒気が入った影響で、気温は低めに経過した。3日から4日にかけてと6日には、気圧の谷が通過した影響で、県内の所々で雨となった。中旬は冬型の気圧配置になる日が多かった。15日から16日にかけては、日本海と南海上を低気圧が通過した影響で、県内で雨となった。下旬の初めから中頃にかけては短い周期で変化した。旬の終わり頃は寒気の南下で冬型の気圧配置が強まった。
- 2月： 上旬の前半は冬型の気圧配置が続いた。1日から2日にかけては、強い寒気が流れ込んだ影響で、県南部を中心に大雪となった。旬の後半は短い周期で変化した。中旬の初めと旬末は冬型の気圧配置となり、気温は低めに経過した。その他の日は、南海上の前線や低気圧の影響を受けて、曇りや雨の日が多くなった。下旬は周期的に変化した。23日は、発達した低気圧が日本海を北東進した影響で、近畿地方で春一番が吹いた。
- 3月： 上旬の前半は周期的に変化した。旬の中頃は強い冬型の気圧配置が続き、気温が低くなった。旬の後半は概ね高気圧に覆われて晴れの日が続いた。中旬は周期的に変化し、寒暖の変動が大きかった。12日から13日にかけては、強い冬型の気圧配置となり、県内の所々で積雪を観測した。下旬の前半から中頃にかけては、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。22日は、低気圧が山陰沿岸を通過した影響で、南部を中心にまとまった雨となった。旬の終わり頃は概ね高気圧に覆われて晴れの日が多かった。
- 4月： 上旬は周期的に変化した。崩れの程度は小さく、気温の高い日が多かった。中旬の初めと旬末は低気圧や前線の影響を受けてぐずついた天気となったが、その他の日は高気圧に覆われて概ね晴れの日が続いた。下旬の中頃は気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨となったが、その他の日は高気圧に覆われて概ね晴れの日が多かった。なお、2日には、桜(ソメイシノ)が開花(平年より1日遅い、昨年より8日遅い)し、7日には、満開(平年より1日遅い、昨年より8日遅い)となった。
- 5月： 上旬の初めと中頃にかけて、前線や低気圧の影響で曇りや雨となったが、その他の日は概ね晴れとなった。中旬は気圧の谷が周期的に通過した影響で天気が崩れたが、その他の日は高気圧に覆われて概ね晴れとなった。また、気温は前半を中心に低い日が多かった。下旬の前半と旬の終わり頃は気圧の谷や寒気の影響を受けて曇りや雨となったが、旬の中頃は高気圧に覆われて概ね晴れの日が続いた。
- 6月： 上旬の初めと旬末に気圧の谷や上空の寒気の影響で曇りや雨となったが、その他の日は高気圧に覆われて晴れの日が続いた。このため、降水量は少なくなった。中旬の初めの11日、前線を伴った低気圧が通過した影響でまとまった雨となり、近畿地方は11日頃、梅雨入り(平年6月6日、昨年6月6日)した。その後、南海上に停滞した梅雨前線の影響で、15日から16日にかけても、県南部を中心にまとまった雨となったが、梅雨前線の影響が小さかった県北部では降水量は少なめに経過した。下旬の前半と後半は梅雨前線の影響でぐずついた天気となった。29日は、梅雨前線の活動が活発となり、大気の状態が不安定となった影響で、県北部の所々で雷を伴った短時間強雨となった。なお、気温は高くなった。

- 7月：上旬の前半は梅雨前線が西日本付近に停滞して活動が活発となった影響で、県内の所々で大雨となった。旬の中頃は梅雨前線が南海上まで南下して停滞したことから、高気圧に覆われて晴れる日もあったが、旬の終わり頃は再び梅雨前線が西日本に停滞したことにより曇りや雨の日となった。中旬の初めは梅雨前線が西日本付近に停滞した影響で、曇りや雨となる日があった。その後は上空に寒気が入った影響で曇りの日もあったが、高気圧に覆われることが多く、概ね晴れて気温の高い日が続いた。このため、県南部を中心に降水量が少なくなった。なお、18日頃、近畿地方は梅雨明け(平年7月19日頃、昨年7月13日頃)した。下旬は太平洋高気圧に覆われて概ね曇り晴れの日が多かったが、26日には台風第7号が南海上を通過した影響で天気は崩れた。また、旬の終わり頃は日本海の低気圧や前線の影響で一時的雨となる日があった。
- 8月：上旬は太平洋高気圧に覆われて真夏日(日最高気温が30℃以上)が続いたが、大気の状態が不安定になることが多く、県内の所々で雷を伴った短時間強雨となった日もあった。中旬の前半は前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多くなった。旬の後半は高気圧に覆われたが、大気の状態が不安定となった影響で、県内の所々で雷を伴った短時間強雨となった日もあった。下旬は前線や台風などの影響を受けて曇りや雨の日が多くなった。24日から25日にかけて台風第11号が紀伊半島の南海上を通過した影響で、県南東部を中心に大雨となった。また、旬末の31日は前線が西日本の南岸に停滞した影響で県南部を中心に大雨となった。
- 9月：上旬の前半は高気圧に覆われて概ね晴れの日が多かった。旬の中頃は台風第14号が九州の西岸から日本海を北東進した影響で県南部を中心に大雨となり、日出岳では総雨量が932mmを観測した。なお、奈良で7日02時19分に南東の風19.5m/sの最大瞬間風速を観測した。旬の終わり頃は高気圧に覆われたが大気の状態が不安定となり、県北部の所々で雷を伴った短時間強雨となった。中旬は台風第15号から変わった低気圧や前線の影響を受けたものの晴れる日が多かったため、日照時間は多く、降水量は少なくなった。11日は日本海の前線の影響を受けて県内全般に雨となった。14日は台風第15号から変わった低気圧が日本海を通過したため、県北部を中心に雨となった。下旬は短い周期で気圧の谷が通過した影響で天気がぐずぐず時期もあったが、崩れる程度は小さく降水量は少なかった。また、気温の高い日が多かった。
- 10月：上旬は前線の影響で曇りや雨の日が多かった。このため降水量は多くなった。また、気温は前半を中心に高い日が多かった。中旬は周期的に変化した。15日は日本海沿岸の前線の影響で、県内でまとまった雨となった。17日から18日にかけて南海上の前線と台風第20号が南海上を通過した影響で、県南部を中心にまとまった雨となった。下旬も周期的に変化した。22日から23日にかけて日本海の低気圧から延びる前線が通過した後、寒気が流れ込んだ影響で、県北部を中心に雨となった。29日は気圧の谷が通過した影響で、県北部を中心にまとまった雨となった。
- 11月：上旬は高気圧に覆われて概ね晴れの日が多かったため、降水量は少なく、気温は高めに経過した。中旬の11日は南海上を低気圧が通過した影響で雨となったが、その他の日は概ね晴れの天気となった。旬の中頃から後半は冬型の気圧配置が続いた影響で、気温が低めに経過した。なお、奈良で16日初霜(平年より7日遅い、昨年より15日早い)を観測した。また、17日初氷(平年より6日早い、昨年より20日早い)を観測した。下旬の前半から中旬は高気圧に覆われて概ね晴れの日が多かったため、降水量は少なかった。旬の後半は短い周期で天気が変化した。
- 12月：上旬の前半は短い周期で天気は変化した。4日は日本海の低気圧から延びる寒冷前線が通過した影響で雨となった。旬の中頃からは冬型の気圧配置が続いた。なお、5日には近畿地方で「木枯らし1号」(昨年より8日遅い)を観測した。また、5日初雪(平年より14日早い、昨年より24日早い)を観測した。中旬は冬型の気圧配置となる日が多く、強い寒気が入った影響で気温は低めに経過した。また、17日から18日にかけて、冬型の気圧配置が強まり強い寒気が入った影響で県内の所々で積雪を観測した。下旬も冬型の気圧配置となる日も多く気温は低めに経過した。また、22日は強い冬型の気圧配置となった影響で、奈良で積雪3cmを観測した。

資料：奈良地方気象台「奈良県の気象」

奈良市の月別気象

年 月 別	気 温 (°C)			湿度(%)	風 速 (m/s)		降 水 量 (mm)	
	日 平 均	日最高平均	日最低平均	平 均	平 均	最大瞬間	合 計	最 大 1時間量
平成13年	15.1	20.7	10.4	71	1.4	23.1	1,189.0	35.5
14	15.4	21.1	10.7	71	1.4	19.3	990.0	37.5
15	14.8	20.0	10.3	75	1.4	24.2	1,546.0	27.5
16	15.7	21.4	10.9	71	1.5	23.2	1,510.5	55.0
17	14.9	20.4	10.3	70	1.4	21.2	911.0	27.5
17年1月	4.0	8.8	-0.1	68	1.5	14.5	26.0	2.5
2	4.2	8.9	0.0	69	1.6	16.9	56.5	4.0
3	7.1	12.8	1.9	68	1.7	17.2	63.5	2.5
4	14.3	21.4	7.5	58	1.6	14.5	49.5	7.5
5	17.6	24.2	11.4	65	1.4	13.5	64.0	8.0
6	23.3	28.8	18.6	71	1.5	21.2	88.5	18.0
7	25.7	30.4	22.1	77	1.3	14.3	157.0	10.5
8	26.7	32.6	22.6	74	1.3	14.3	39.0	10.0
9	24.1	29.6	20.2	75	1.4	19.5	123.5	27.5
10	17.4	22.4	13.5	79	1.1	12.0	185.0	24.5
11	10.5	16.6	5.5	74	1.1	14.3	27.5	5.0
12	3.8	8.2	0.0	64	1.7	16.6	31.0	4.5

資料：奈良地方気象台「奈良県の気象」

(注) 1. 欠測数が20%未満のときは、値に] をつける。

2. ※雪に関する統計については、今年度より1年前年8月～当年7月を1年間とする方法(寒候年)に変更したため、17年の各月の合計とは一致しない。

県内各地の気象

(平成17年)

気象項目別	奈 良	針 大 宇 陀	※五 條	上 北 山	風 屋
年 平 均 気 温 °C	14.9	12.2	13.0	16.1]	13.6
日最高気温(年平均) °C	20.1	16.9	18.6	21.9]	19.5
日最低気温(年平均) °C	10.4	7.9	8.2	11.1]	9.7
年 間 降 水 量 mm	910	1,159	1,227	1,036]	1,857

資料：奈良地方気象台「奈良県の気象」

(注) 1. 欠測数が20%以上のときは、値に] をつける。

2. ※五條観測所については観測所移設のため平成17年12月16日までの観測運用の数値を記載した。

奈良県で感じた主な地震

(平成17年)

月 日	発現時分	震 度				震 央 位 置		深さ (km)	マグニチュード	震 央 地 名
		奈良	平群	桜井	大淀	東 経	北 緯			
1月9日	18時59分	1				136度51分03秒	35度18分42秒	12.6	4.7	愛知県西部
3月14日	19時49分	1				137度02分26秒	33度10分00秒	43.9	4.3	紀伊半島沖
3月20日	10時53分	1				130度10分35秒	33度44分21秒	9.2	7.0	福岡県西方沖
6月20日	14時04分	1				136度51分23秒	35度45分28秒	9.1	4.6	岐阜県美濃中西部
8月16日	11時46分	1				142度16分40秒	38度08分58秒	41.6	7.2	宮城県沖
11月1日	12時47分			1		135度05分01秒	33度49分27秒	45.0	4.3	紀伊水道
12月24日	11時01分	2		1	1	136度50分25秒	35度13分50秒	42.9	4.8	愛知県西部
12月28日	11時18分	1				136度09分59秒	34度36分24秒	51.4	3.7	三重県中部

有感地震観測回数

奈良市平田開町： 7回 平群町鳴川： 0回
桜井市池之内： 1回 大淀町松垣本： 2回

資料：奈良地方気象台

(注) 各要素は精密調査の結果により後日修正されることがある。